

## 編集によせて

先年は「人権ゆかりの地をたずねて」の乙訓・南山城編が京都人権啓発推進会議から発行されました。今回はその続編として「丹波・丹後編」をおとどけします。

人権とは人の生命の大切さを知ることにつきます。人は大都会だけでなく、農・山・漁村どこにでも住んでいます。いや、農・山・漁村や地方都市が、かつての首都であった京都や近代日本の大都市の人と文化の源流でありました。

丹波・丹後地域のどこへ行っても、温かな人の息吹にふれることができます。今回もその中から十二編にしぼることは、なかなか困難な作業でした。幸い、ご執筆いただいた先生方のご熱意とご協力で、ともかくこの小冊子の刊行にこぎつけることができました。

この冊子を座右に、ふるさとの人の生きてきた足どりとふるさとの自然に思いをはせて、明日の人権のあり方を心にとめていただければ幸いです。

編集担当 仲尾 宏

(財)世界人権問題研究センター  
研究第3部長

この冊子をつくるに当たり、関係の方々に文献、資料の提供や写真撮影などについて、数々のご配慮をいただきました。厚くお礼申し上げます。

### <執筆者> (掲載順)

- |       |                         |
|-------|-------------------------|
| 上田 正昭 | 京都大学名誉教授・研究センター理事長      |
| 日端 泰子 | 京都橘女子大学教授・研究センター客員研究員   |
| 早野 一郎 | 元愛知大学教授・研究センター理事        |
| 福田 雅子 | NHK解説委員・研究センター研究第4部長    |
| 仲尾 宏  | 京都芸術短期大学教授・研究センター研究第3部長 |
| 秋定 嘉和 | 池坊短期大学教授・研究センター研究第2部長   |
| 辻 ミチ子 | 京都文化短期大学教授              |
| 山本 尚友 | 研究センター専任研究員             |



錦絵 安寿姫と對王丸(古今百人烈女壁) 一風斎国安作(天保(1830-44)晩年)  
 山椒太夫に買われ、由良の浜で慣れない汐汲みや柴刈りをする安寿と厨子王の姿を描く